

フォルクスワーゲンの排気ガス不正

株式会社の公共性と私的利益の追求

クレジット

「フォルクスワーゲンで何が…」,
『クローズアップ現代』;
「フォルクスワーゲン不正問題と
自動車の未来」, 『視点・論点』
(いずれもNHK)

注目点

➡巨大株式会社の公共性と私物化との矛盾

※ ただし、現場責任と
オーナー経営者の独裁体制との関連は
未解明な部分が多い。

➡ステークホルダーとしての消費者

動力別の自動車の種類



動力別の自動車の環境特性

CO₂: 二酸化炭素 PM: 粒子状物質 NO_x: 窒素酸化物

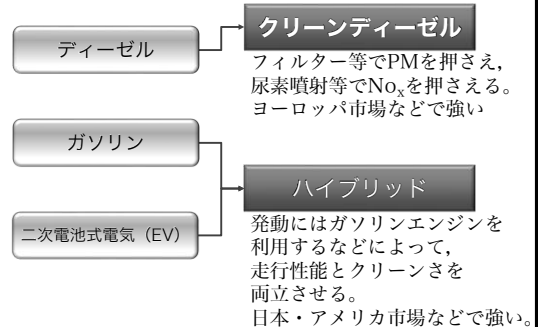
ディーゼル — CO₂は比較的が少ないが、黒煙・PM, NO_xが多い。

ガソリン — 黒煙・PM, NO_xは少ないが、CO₂が比較的多い。

二次電池式電気 (EV) — 割とクリーン (ただし、走行距離が短いなど、別の問題がある)

水素燃料電池 (FCV)

現状の解決策



フォルクスワーゲンの特徴

- 戦前にナチス・ドイツの国策企業として設立（1937年）
 - フォルクスワーゲンとは「国民車」のこと。
 - フェルディナンド・ポルシェがタイプI（ビートル）を設計。
- 戦後も西ドイツの国営企業（～1960年）
- フォルクスワーゲン法（1960～）
 - 持ち株比率に関わりなく、どの株主も20%以上の議決権を行使することができない。
 - 20%株主であるニーダーザクセン州の意志を担保する。これによって、企業城下町ウォルフスブルク市を中心とするニーダーザクセン州の雇用と税収を守る。
 - 2007年に欧州司法裁判所で違法判決。
- 一気に公共性原則からポルシェ創業者一族（ポルシェ家とビエヒ家）の私物へ

超国籍企業

- グループ企業には
 - ポルシェ、ランボルギーニ、アウディ、ドゥカッティ、ベントレー、プガッティなど
- 私物にしてはあまりにも巨大
 - 2014年連結売上高：28兆円以上*
 - 2014年グループ従業員総数：59万人以上
- 不正の規模も桁外れ
 - リコールだけで1100万台とか想像ができません。
 - アメリカだけで制裁金が2兆円を越えるとか想像が(略)

*インターバンク直物相場・東京市場17：00の年中平均レートで換算

ドイツのコーポレート・ガバナンスは世界一イイイイ

- ステークホルダーが監視しその利益を守るという観点からコーポレート・ガバナンスを構築
 - フォルクスワーゲン法（1960年）
 - 共同決定法（1976年）
 - 従業員2000人以上の大企業の場合、監査役の半数は労働組合から選出される。
- コーポレート・ガバナンス・コードックス（2001年）
 - 投資家の信頼を得るために、監査の独立性、会計の厳格性などを強化した。（アメリカのSOX法は2002年）